

第3回 地域づくり部会

日時 令和7年3月31日 午後6時～8時
場所 入札室
参加者 椎名 宮端 塚本 今井 内藤 末永 友利 三浦
大竹（どま一に・部会関係者）
事務局 武藤

委員からのご意見

☆障害者の居場所（日中の活動の場）

- ・椎名 障害者の日中過ごせる場所があるのはとても良いことなのだが、日中活動の場を提供している身としては課題があるとも感じる。居心地が良くて逆に外出を抑える人がいたり、支援している側も楽な部分もあったり、室内で過ごす時間が多くなるのではないかな。
- ・内藤 利用者も同じ空間にいたることが多くなると利用者同士でケンカになることもある。サービス支援者側もなかなか一人ひとりに目が行き届かない場合もあり、ストレスがたまる要因になっているようだ。
- ・今井 GHの日中サービス支援型は新宿ではない。それどころか23区内で数えても数件である。サービス単価が少なく、利益があまり出ないため採算を合わせることが事業所として難しいと判断されているのだと考えられる。
- ・塚本 他県ではGHの3つの類型の中では単価高い日中サービス支援型でのGHをとりあえず作っている事業所が多いと思われる。東京とは違う傾向のようだが、該当の支援型がぐんぐんと数を増やした結果、利用者が日中にその場所にただいるだけの空間が出来上がってしまっている問題が発生している。
- ・三浦 多くの利用者が受け身的である。その部分に支援者も胡坐をかいている部分があり、結果何もしない空間が出来上がっているように思う。しかし、本人が内在する可能性が奪われて行っていることはとても嘆かわしい。やはり、支援する側がスキルをつけて、能動的に動いていく必要はあると思うし、その結果、利用者が室内で過ごす時間が増えても特に問題ないと思う。
- ・椎名 地域に開かれた事業所を目指したい。障害者福祉センターでは障害者もコミュニティーの一員であることをわかってもらうための取組としてセンター内に自由に立ち入れるような状態にしているが、なかなか入ってもらえない。
- ・全体 独り立ちをした障害者が戻ってこられる場所を考えたほうが良い。就職して働いてはみたものの職場環境が肌に合わず退職する者がいる。その際、障害サービス等事業所の支援が切れている場合などがあり、どこにもつながらずそのまま引きこもりになってしまう例が多いので悩ましい。

- ・ 全体 18 歳までは児童相談所がかかわってくれるが、その後は生活保護の部署に対応が変更されてしまうため、そこで支援の一貫性が失われる。最悪の場合、支援がそのまま切れてしまい利用者が引きこもりになることがある。区は引きこもりについて問題意識は持っているが、引きこもり側に受け入れてほしい意識もあまりない事から有効的な対応をうつことが難しくなっている。

☆障害福祉サービス等事業所の人材について

- ・ 全体 最近は人材不足が加速している。福祉マインドがあってもなかなか福祉業界にはいてくれない。一番ネックになっているのは「仕事に見合う賃金がない」という部分だろう。
- ・ 椎名 50 歳台で福祉事業所の入社面接に来る人もおり、昔なら敬遠していたが社会情勢を考慮するとそうもいってられない。

☆障害者の居場所（住居関係）

- ・ 今回は意見無し。